

発行：一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団（キッズファム財団）

Foundation for Severely Ill Children and Their Families



皆さん、笑顔が素敵です！今回は喜谷昌代前理事長のファミリーフォトと一緒にです。



ご挨拶

キッズファム通信の第6号をお届けします。前号まで、「ご挨拶」を申し上げておりました「一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団」の創設者である喜谷昌代理事長は本年6月にお住まいになられていた英国においてご病気のために天に召されました。まことに残念な事であります。しかし、安らかな最期であったとうかがって少しほっといたしました。ご遺族の来日にあわせて10月に上皇后美智子様のおでましをたまり「お別れの会」なども催しました。

2016年4月に国立成育医療研究センター敷地内に開設された「もみじの家」は故喜谷昌代の「重い病気を持つ子どもとその家族が笑顔になれる施設を作りたい」という夢の実現の第一歩だったのだとつくづく思います。私は仲間と北海道滝川市に難病とたたかう子どもと家族のための医療ケア付

一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団
代表理事 細谷 亮太

きキャンプ場（そらぶちキッズキャンプ）を造ろうとしていた時期に前理事長とお目にかかり、15年ほど前から親しくお付き合いいただきました。

「もみじの家」が企画され、出来上がっていく過程も見せていただきましたし、その後、当財団が立ち上がってからは、理事の一人として前理事長とともに活動してまいりました。そのようなご縁から、前理事長のご遺志で、このたび不肖、私が代表理事を承ることになりました。

今後、故喜谷昌代のさらなる夢－「もみじの家」のような施設を全国に造り、重い病気の子どものと家族がほっとひとやすみできるような環境を整える－を実現すべく、石井由美子、大川周二両執行理事をはじめ、役員、事務局、ボランティアの皆様と一丸、ワンチームとなって努力を続ける所存です。引き続き、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

☆財団の主なイベントご紹介

■講演会・スペシャル対談

“支える” “支えられる” ということ

～重い病気がある子どもと家族が共に暮らせる社会にするために必要なこと～

10月27日（日）13時より、国立成育医療研究センターの講堂において「“支える” “支えられる” ということ」をテーマに講演会・スペシャル対談を開催しました。

まず、津田塾大学客員教授・元厚生労働事務次官の村木厚子さんによる講演会、ヴァイオリニスト・歌手の増田太郎さんによるミニコンサートを挟んで、認定NPO法人難病の子ども支援全国ネットワーク顧問の小林信秋さんと村木厚子さんによるスペシャル対談が行われました。

講演会では、村木厚子さんから「仕事の出会いで学んだこと」として、障がい者との接し方、また繋がり方について話がありました。続いて「子育ての中で学んだこと」として、子育ての大変さと人につながる機会になることなどについてお話がありました。さらに、「事件を通じて学んだこと」として、逮捕されて163日間拘留された経験を通じて、1夜にして支える立場から支えられる立場に変わったこと、誰もが支えられる立場になること、家族や同僚からの支えと弁護士の方の支えが大きかったことなどお話しいただきました。最後に「島根の甌島で学んだこと」というテーマで、「困ったなあ」と口に出すこと、また「私でできることでよければ」と口に出すことが大事とお話をいただきました。

続いてヴァイオリニストの増田太郎さんのミニコンサートがあり、その力強い演奏とユーモアあふれる語りに皆さん魅了されていました。中でも、6月に亡くなった喜谷昌代前理事長のために演奏した曲に、英国より訪日中のご主人、喜谷喜夫さんはじめ皆さん聞きほれていました。

対談開始前に、小林信秋さんより障がい児のことについて先ずお話があり、その後村木厚子さんとの対談が始まりました。



小林さんと村木さんの対談



村木さんによる講演会



増田さんのコンサート

た。村木厚子さんはこれまで自分が関わらなかった障がいの世界との間の川をどうやって渡れば良いか最初は分からなかったという悩みがあったとの話がありました。子ども同士の交流の大切さ、異なるものとつながる大



切さ、それを通じて成長する子どもたちについて話が続きました。その障がいの世界との川に橋を架けたり、船で渡れるようにするのが財団の務めのひとつであるとの思いを抱きました。

人はみな支えるだけではなく、支えられることもあって初めてバランスが取れること、また一人では生きていけないことを知った講演会・スペシャル対談となりました。登壇者、演奏者の皆さまと来場者の皆さまに感謝申し上げます。



同時開催の写真展

アンケートのコメントから

- 村木さんご自身の経験談から誰もが支え・支えられて生きているものということが良く分かりました。
- 増田太郎さんのエネルギーあふれる演奏と語りに元気をもらいました。
- 対談では病気のあるなしに関わらず子ども同士の交流の大切さを感じました。違いを理解した子どもたちが成長した時に社会は変わっていくのかも知れません。

■成育バザー

昨年初参加で大好評でした「成育バザー」に10月24日（木）、2度目の参加をしました。当日は台風襲来で心配しましたが、例年通りお客様の行列が出来、ほっといたしました。少しずつ評判が口コミで広がり、昨年とは違う顔ぶれのお客様も多く来られました。

ゆっくりアクセサリーを選ぶ奥様やママにお洋服を見立ててもらってはにかむ女の子など楽しんでお買物をしていただき、今年も大盛況でした。

財団メンバーや協力してくださる方からのご寄付による品物がたくさん集まり、値札を付けたりディスプレイの工夫など準備は大変ですが、これからも財団の収益の一助となりますよう続けていきたいと思ひます。



■写真展

各地で実施しました！

日頃よりキッズファム財団の写真展をご覧いただきまして、心よりお礼申し上げます。お母様と手をつなぎ説明を受けながら見ているお子様から、ご年配の方まで幅広い年齢の方々に関心をお持ちいただいております。

■ 10月19日～20日、小田急線唐木田の大妻女子大学多摩キャンパスの学園祭で写真展を行いました。とても熱心に時間をかけ、全ての写真とメッセージを丁寧に見終えてから「今日はお母さんに感謝の気持ちを伝えます」と潤んだ瞳で話をしてくださった青年。写真を見ながら自身の家族に思いを重ね「重い病気を持つ家族の方たちへの理解が深まりました。そして笑顔あふれる写真を見て大切なことに気づかされました」とおっしゃっていた二人のお子さんを持つお父様。ご家族に重い病気を持つ兄弟がいて共に成長してきた方は、経験してきたこと、兄弟を思う気持ちを伝えてくださり、思いに心打たれました。



大妻女子大

■ 11月10日、新宿区立子ども総合センターでの「ここ・からまつり」で写真展が開催されました。昨年同様通路の壁面にファミリーフォトを掲出し、多くの一般の来場者に重い病気を持つ子どもと家族のことを知っていただく良い機会になりました。



新宿区立子ども総合センター

■ 5月から11月末までの半年間、横浜岡田屋川崎モアーズの地下スペースにて「キッズファム財団写真展」が開催され、買い物にこられた多くの方々に見ていただきました。



川崎モアーズ

また国立成育医療研究センターのロビーにて、常設展「もみじ写真館」を展示中です。上記の写真展を通して多くの方とつながり、思いや気持ちを伝えていただけることは喜び、楽しみ、財団での活動の励みとなります。そして、優しさ、温かい気持ちも届きます。これからも多くの方に写真展をご覧いただきたいと思っています。

■ TMC 商店街主催 夏祭り

8月4日、お祭り日和の暑い夏の夜、財団の有志スタッフで、国立成育医療研究センター中庭で行われたTMC主催の夏祭りに「輪投げコーナー」で参加しました。募金にご協力いただいてから輪投げで遊んで、入った輪の数で景品がもらえます。色とりどりのペットボトルが的として置かれた光景にひかれて、子どもたちが足を止めてくれるのですが、輪投げ遊びを知らない子どもが多く、「どーやるの？」と興味津々で聞いてくるのにはびっくりしましたが、投げた輪が的に入るたび大喜びでした。もみじの家を利用してくださっている子どもたちや、車いすの高齢者の方など多くの方に楽しんでいただき、大盛況でした。



■チャリティカフェライブ

偶数月の第3水曜日に、成育前のカフェパートメント183にてチャリティライブを開催しています。医療的ケア児や地域のお子さん方、音楽好きな多くの方々にご来場いただいています。

■ 6月19日

向江陽子さん（歌・ヴァイオリン）と伊藤詩織さん（ピアノ）による演奏がおこなわれ、オリジナル曲から人気曲のカバーまで多くの曲目を演奏していただき、向江さんの力強く透き通った声と、伊藤さんの包み込むようなピアノの音色に、会場全体が聴き入っていました。リクエストの多い情熱大陸のテーマ曲では、多くの参加者が心をつかまれました。



向江さんと伊藤さんによる演奏

■ 8月21日

東京アコーディオン研究会（あこけん）による演奏がおこなわれ、アコーディオンの世界を満喫させていただきました。お玉と泡立て器を持つ「キューピー 3分間クッキング」の軽快なメロディーで始まり「黒い瞳」「詩人の魂」トトロの「さんぽ」はみんなで大合唱でした。明るく陽気なあこけんメンバーによる、どこか懐かしくも温かいアコーディオンの演奏に、皆さん楽しまれている様子でした。



東京アコーディオン研究会による演奏

■ 10月16日

安藤絵理さん（クラリネット）と鈴木杏莉さん（ピアノ）による演奏がおこなわれ、ドビュッシーの「グリーンウッドのケークウォーク」の軽快なテンポで始まり「もみじ」で秋を感じ、「幸せなら手を叩こう」では、大人も歌いながら頭の体操になりました。「パプリカ」は手遊びしながら完壁に歌うお子さんで盛り上がりしました。



安藤さんと鈴木さんによる演奏

■もみじの家 夏祭り

8月17日（土）猛暑の中来館された方々はその涼しさにしばし汗の引くのを待つようなご様子です。2階の多目的室ではファミリーフォトプロジェクトのメンバーが色とりどりに、心が和むような背景を創作し、その前でご家族がちよつと緊張した面持ちでポーズを決めると次の瞬間「カシャッ！カシャ・カシャ・カシャ・・・」一瞬の静けさのあと一気に優しい笑顔になりご家族がお互いに目を合わせ満足感を分かち合っているような様子。ホッとした後は1階のキッズファムカフェへ。お代わり自由のコーヒー、紅茶、抹茶などでのどの渴きを潤し、ゆったり置かれた椅子に体をゆだね寛いでいただいている様子が見られました。またいらしてくださいね！



創作を背景にした撮影風景

～喜谷昌代前理事長お別れの会～



喜谷 昌代
(1936年5月8日～2019年6月12日)

お別れの会
2019年10月17日(木)
国立成育医療研究センター12F
レストランつばさ

if
KidsFam
一般財団法人
重い病気を持つ子どもと家族を支える財団

10月17日(木) 16時より17時30分、国立成育医療研究センター12階レストラン“つばさ”において、当財団主催の「喜谷昌代前理事長お別れの会」を執り行いました。

会に先立ち、美智子上皇后陛下にお出ましを賜り、献花とご家族へのご挨拶をいただきました。また前理事長の写真や愛用していた品が並ぶテーブルの前で足をお止めになり、「これはいつの写真」「うつくしいカップね」と愛おしそうに一つひとつをご覧くださいました。

お別れの会には125名の方がご参加くださいました。また喜谷家からはご主人様、2人のお嬢様、お嬢様のご主人様、5人のお孫さんがご参加くださいました。

前理事長が好きだったバラ、ラン、ユリの美しい花の香りに包まれ、アベマリアの調べが静かに流れる中、ご参加いただいた皆様に献花をしていただきました。そして前理事長が好きだった大福、プディングを召し上がっていただきました。

細谷亮太代表理事の開会の辞に続き、参加者全員で黙祷をささげました。

その後、所縁のある3名の方よりお別れのお言葉をいただきました。

国立成育医療研修センター病院長、賀藤均様からは、前理事長とののはじめての出会いや、国立成育医療研究センターを“もみじの家”建設に突き動かした前

理事長の熱意と粘り強い働きかけについてお話をいただきました。

読売新聞東京本社常務取締役、南砂様からは、赤十字思想を特集した新聞記事の取材を通して知り合い、その後も交流を続け、前理事長の夢であった“もみじの家”建設を支援し、国立成育医療研究センターへ繋いだエピソードが紹介されました。

“もみじの家”利用者であり、開所記念式典で前理事長と共にテーブルカットをくださった池末琴ちゃんのお父様、有貴生様からは、台風で浸水の危険があった友人家族を自宅に避難してもらったこと、真っ暗なトンネルの中でどうしてよいかわからず、もがいていた自分たち家族が、他の家族を支える立場になれたのは“もみじの家”のお陰、と感謝の言葉が述べられました。

その後、前理事長のために作られた“Remembrance” “Hear My Voice”の2曲が演奏され、前理事長のすべての人に向けられた深い慈しみを偲びました。

最後にご家族を代表し、ご主人の喜夫様より皆様へのお礼の言葉があり、閉会いたしました。

ご参加いただきました皆様、ご協力いただきました皆様により感謝申し上げます。



思い出の品々



懐かしい写真など



喜谷家ご家族の皆様



細谷代表理事のご挨拶



演奏風景



英国だより(3)

今年の夏、ヨーロッパ大陸の猛暑とは関係なく英国では夏らしい夏日もなくそのまま秋がやってきてしまいました。特に今年は英国がEUから離脱するかどうかの問題で、政局も不安定な状態が続いて居た為かどうか、気候まで毎日ぐずついている雰囲気です。

それでも秋は確実にやって来ており前号でご覧になっていた、白い花をいっぱいにつけていた我が家の庭のリンゴの木には、赤いリンゴがたわわに実って居ります。

日本ではリンゴは大きくて、甘いおいしい果物ですが、英国では日本の様なリンゴは無く、大きさも小さく、ひと昔、ふた昔も前の、かじると甘酸っぱい味のリンゴで、我が家のもこの類です。それでも収穫して業者に依頼してリンゴジュースにしてもらい、結構楽しんでおります。



たわわに実ったリンゴの木

喜谷 喜夫



今年も10月27日(日)で夏時間から冬時間に変わり、日本とは9時間の時差になりました。秋の日は釣瓶落としと申すように毎日毎日日没が早まりこれからクリスマスに向かい3時頃には暗くなってしまい哀愁を感じるのは私一人ではないでしょう。

キリスト教文化圏ではこの自然現象に対して人々の心を温かく、豊かにするクリスマスが12月にあり、11月に入るとクリスマスセールも始まり、各種のパーティーも始まり人々の暗い心も吹き飛ばされる様になっています。

その上、今年は英国のEUからの離脱関連で12月12日には総選挙も行われる事になりました。実際にどのような事が起こるのかは、次号でお話し致しましょう。皆様、どうぞ楽しいクリスマスと素晴らしい新年をお迎え下さい。



もみじの家のクリスマスツリーと(2016年)

※これまで、喜谷昌代前理事長に英国だよりを送って頂いていましたが、今号よりご主人の喜谷喜夫様に執筆をお願いしています。

或る日の
カフェ便り

お知り合いとの同窓会



“今日のご家族の方いらっしゃるかしら?”
もみじの家の玄関前に立った時、期待を込めて思います。もみじの家誕生の頃は利用者様のご家族も、父方、母方の祖父、祖母、など沢山見えカフェで一服されましたが、利用が3回目くらいになると、お子様を預けてきょうだいの学校に行ったり、母親は自分の腰痛等の病院へ行ったりと子どもと一緒にできない事をしたいと変化して来ました。

ある日 静岡県を今朝車で出発して、子どもと2人でもみじの家に来たというお母様、子どもがもみじの家に入所できてうれしいと喜びにあふれていました。少ししたら友人がきますので広めのテーブルをお願いします。今日は久しぶりに友人と会えるのです、同窓会です。との興奮気味の声を迎えているうちに、同じようなバギーに乗った子ども連れの友人が少し年の大きいお姉ちゃんと沢山のお弁当を持って現れました。2組の家族はお互い一瞥以来のお子様の成長をほめあい、その間のお母さんの奮闘を熱心にきいて、思いやりの言葉をかけあっていました。厳しい看

護の日々を報告しあい、目を赤くしていました。同窓会とは病院だったのです。子ども達の病気を理解しあい、相談

しあえる友がいてカフェで再会でき、もみじの家にどちらかが宿泊できる時また会える望みがあると2人は喜んでいました。ここのカフェで利用者さん同士、友達ができますように、そっと祈っています。



ほっと一息できるのは「もみじの家」と「各種イベント」

押尾 愛子

私たち患児を持つ親は毎日やることに追われています。朝夕のごはんの用意のほか、1日に7回の内服（二人合わせて）注射、注入、薬の確認等々、何度も時計を見て過ごしています。体調面でも調子が悪くなると一気に入院となってしまうので遠出をして目一杯楽しむということは残念ながら控えています。

そんな生活に彩りを与えてくれるのが、もみじの家での宿泊やキッズファミ財団でのイベントです。今まで、アロマボディトリートメント、クッキングサロン、カフェでのチャリ



チャリティライブにて

ティライブへ参加し、随分リフレッシュさせていただきました。これらのイベントを主催することや運営することは、とても大変なことだと思います。しかし、難病児を抱えた家族にとって本当に心の支えに

なっているので、ぜひ長く続けて欲しいと思っています。実際に年に数回程しか利用できなくても「疲れたら、もみじに泊まろう。」「あのイベントに参加してみたい。」と想像するだけで「今日も一日頑張るか。」という気分させてくれるので不思議です。運営に携わっている方々、ボランティアの方々には心から感謝しています。ありがとうございます。

成長がゆっくりな子ども達の育児は長期戦です。ですので、利用も長期に渡ってさせてもらうことになるでしょう。本当に、もみじの家やイベント等の活動が長く続いて、様々な方が利用できるといいなと思います。我が家だけでなく、医療の発達によりケアの必要な子どもを抱えたご家族も沢山いらっしゃると思います。多くの方々が心にゆとりをもって楽しく生活できたら良いなと思います。



楽器に触れて

最期まで「その子らしく生き抜く」を支える ～小児緩和ケアという視点～

医療技術の進歩により、多くのこどもの命が救われるようになりました。その一方で、治療が奏功せずに大人になる前に生涯を閉じなければならぬこどもたちも少なくありません。医療において「治癒」は大切な目標です。しかし、治療が困難な病気や慢性疾患をもつこどもたちにとっては、医療のゴールは治癒ではなく「いかにその子らしく過ごせるか」が大切な目標となります。緩和ケアとは、看取りの医療ではなく、最期までその子らしく過ごせるために、からだや気持ちの症状を緩和し、本人とご家族が穏やかに過ごせることを支援する医療です。

成人の緩和ケアのイメージでは、余命幾ばくもない患者さんが対象と思われるかもしれませんが、小児緩和ケアの対象疾患は生命を脅かされているこどもたち（Life-threatening conditions）生命が限られているこどもたち（Life-limiting conditions）とされています。もともとは成人を迎える前に亡くなる可能性が高いこどもたちが対象とされていましたが、医療の進歩に伴い現代では、親より早くなる可能性があるという意味で、概ね40歳までに亡くなる可能性が高いこどもたちと考えられています。がんだけでなく、先天性

国立成育医療研究センター 総合診療部緩和ケア科診療部長 余谷暢之

疾患や神経疾患などを抱えるこどもたちも緩和ケアの対象です。病気の経過を意識した上で今の病状に合わせた目標を設定し、その子らしく過ごすためにどうすればよいかを考えます。症状緩和だけでなく生活や遊び、学びの支援もこどもたちにとってはとても大切です。

国立成育医療研究センター「もみじの家」では2018年9月より、当センターにかかりつけのお子さんに対して、専門的な緩和ケアを受けながら最期の時間を過ごすための病床運用を開始しました。成人のホスピスはがんもしくは後天性免疫不全症候群の患者に利用が限られていますが、「もみじの家」では残された時間が限られている状況であれば病気の種類は問わず受け入れを行っています。原疾患の積極的な治療は行わないかわりに、苦痛症状の緩和を積極的に行いながら、最後までその子らしく過ごせるように支援を行っています。



History of KIDANI 〈5〉 ドイツにて

当財団前理事長、喜谷昌代のボランティア活動の歴史を紹介しています。前回に引き続き、ドイツでの話です。

ドイツでもいろいろな活動をしました。その中の一つが刑務所の保護士でした。やってみないかと言われたとき、とても無理だと思いましたが、よく考えて“またとない貴重な機会”とやることを決めました。

約 1,000 人が収容されている刑務所で、たむろする服役者、大きな鉄の扉、看守がもつ鍵束のガシャガシャという音、体が硬くなりました。担当したのは 21 歳の青年、仏頂面で「一体何しに来たんだ」と言わんばかりの態度に、額からタラタラ汗が流れ、膝頭がワナワナ震えました。何度目かの訪問の時、お菓子の話になりました。子どもの頃、母親が焼いてくれたお菓子、作り方を尋ねると「砂糖だろう、バターだろう・・・」と教えてくれました。次の面会日に教えてもらったお菓子を焼いていきました。「お袋のほどはおいしくないが、まあまあだな。」それ以来、少しずつおしゃべりができるようになりました。刑期終了が近づくと外出が許可され、その時の付き添いもしました。何回かの外出に付き添った後、喜谷は英国に移ることになり、青年とは、それきりになってしまいました。

英国に来てしばらくした頃、知らない女性から手紙が届

きました。出所した青年と暮らしていた女性で、手紙には、「彼がお金や通帳を持って姿を消した。一緒に暮らしていた時、よくあなたの話をしていたので、もし訪ねて行ったらすぐに帰るように言ってほしい。」と書かれていました。玄関のベルが鳴ると、“もしかしたら”と思ったそうです。



紙芝居を見せる喜谷昌代

ご寄付いただいた方々ご支援有難うございます

(2019.4.1 ~ 2019.9.31)

敬称略

芦澤 昌子 / 井伊 知美 / 飯塚 美枝 / 池上 典子 / 池末 有貴生 / 池田 琢哉 / 池谷 満 / 池永 豊子 / 伊佐 拓哲 / 石井 恒樹 / 石井 由美子 / 石川 わかな / 石田 朋靖 / 石橋 広隆 / 石原 道子 / 石山 正子 / 五十子 敬子 / 市川 おさと / 市橋 良子 / 伊藤 啓子 / 稲垣 いく子 / 稲垣 功一 / 伊野波 真紀 / 岩佐 敏子 / 岩田 啓子 / 岩藤 潔子 / 岩間 有喜子 / 宇多 小路 利子 / 大川 周二 / 大谷 寿子 / 大西 雄一 / 岡部 和子 / 岡本 和子 / 岡本 寛志 / 小川 典子 / 奥芝 彰子 / 尾島 伶子 / 越智 一美 / 尾鍋 正子 / 小野 登美子 / 加我 牧子 / 片山 成美 / 桂川 正克 / 門田 徹 / 金澤 開作・記美恵 / 金本 英美 / 鎌田 千津子 / 鎌田 広将 / 蒲谷 ひろみ / 亀山 厚也 / 亀山 聡子 / 河村 政隆 / 菊原 美緒 / 岸本 晃子 / 狐塚 七重 / 鬼頭 とし子 / 吉備 斐子 / 工藤 加寿子 / 工藤 隆司 / 久保 恭子 / 窪田 満 / 栗林 育子 / 栗原 喜久子 / 黒川 晴美 / 桑原 恵子 / 見上 弘子 / 河野 典子 / 五嶋 くみ子 / 児玉 美喜子 / 小林 真琴 / 小峰 万木子 / 小宮山 雅子 / 小山 安澄 / 坂口 明子 / 佐々木 葉子 / 佐竹 誠 / 佐藤 志保子 / 佐藤 照子 / 佐藤 マリ子 / 柴田 敏子 / 島谷 美成 / 白川 世紀子 / 白木 登美子 / シンタ ヒサコ アヤハ / 新藤 由喜子 / 鈴木 良平 / 鈴木 牧子 / 鈴木 佑子 / 砂田 紀子 / 高田 尚子 / 高橋 敬子 / 高橋 信雄 / 高橋 雅江 / 高安 瑠璃子 / 田口 秀子 / 田代 洋子 / 田中 弥生 / 谷畑 桃子 / 玉井 祥子 / 辻村 ともこ / 土田 和子 / 土屋 幸子 / 寺倉 紀世子 / 富和 清隆・万紀子 / 中尾 あぐり / 中島 豊 / 中田 俊行 / 中谷 桂子 / 中野 喜久子 / 中野 由美子 / 永峰 涼子 / 棚川 由紀子 / 西川 保男 / 沼田

真由美 / 原田 京子 / 原田 純子 / 樋口 浩康 / 彦井 佐江子 / 久田 辰夫 / 久間 久恵 / 平馬 慶子 / 廣津 直子 / 廣野 紀子 / ファリーダ ラーマン / 福神 邦雄 / 福澤 良美 / 藤井 克徳 / 藤岡 康 / 古江 磨季 / 堀内 静夫 / 堀江 ひろ子 / 前田 知子 / 班目 晶子 / 松坂 ヒロシ / 松村 礼子 / 松本 恭一 / 三浦 正充 / 三浦 文子 / 水野 正望 / 峯 基二 / 宮武 優子 / 村井 やよい / 村尾 奈央 / 馬上 英実 / 望月 さち子 / 森部 加奈子 / 森山 邦代 / 諸藤 慶子 / 八鍬 瑛子 / 柳澤 正義 / 山内 敏樹 / 山川 好子 / 山崎 佼子・統四郎 / 山下 経子 / 山根 由香 / 山本 貴美子 / 山本 初子 / 横山 房子 / 吉田 三恵子 / 若井 亜紀子 / 渡辺 泰子 / Chizuko Carleton / Masayo Kidani / (イニシャル) AK / AK / AT / HM / OK / SI / SK / 匿名 22 名

ご寄付いただいた企業・団体

立教女学院同窓会 / 宗教法人 成勝寺 / 株式会社 T ポイントジャパン / 東京海上日動火災保険 株式会社 / テームズ会 / 株式会社 ヘルス / 株式会社 八神製作所 / 日本産業パートナーズ 株式会社 / 株式会社 エー・エム・エス / 日本製薬団体連合会 66 社 / 株式会社エラン / 株式会社 東京文化村ザ・ミュージアム / 株式会社ロッテ / ヤマト株式会社

*日本製薬団体連合会 66 社…ウェブサイトをご覧ください。

*募金箱の設置については、多くの企業・団体様にご協力いただいています。設置箇所についてはウェブサイトをご覧ください。

*各種イベントに募金箱を置かせていただいています。



会員募集と ご寄付のお願い

- ★ 財団の活動は、皆様からの毎年のご寄付（年会費）によって賄われております。
- ★ 皆様からのご支援で、一人でも多くの「重い病気を
持つ子どもたちと家族」を支えてください。
- ★ 会員の方には、継続的に財団通信をお送りするほか
講演会等イベントのご案内を差し上げます。
- ★ 財団通信にて、お名前・団体名を開示させていただきます。匿名およびイニシャルをご希望の方はお手
数ですが、財団事務局までメールまたはお電話にて
ご連絡ください。

◆ 年会費（4月1日から翌年3月31日）

- ① 法人会員 1口 100,000 円
- ② パートナー会員 1口 10,000 円
- ③ サポーター会員 1口 3,000 円

※ 1口からお受けいたします。

◆ ご寄付

金額の多寡にかかわらず、ありがたく賜ります。
ご支援をぜひお寄せください。

口座名義

一般財団法人

重い病気を持つ子どもと家族を支える財団

1. 郵便振替
00140-0-420461
2. 三菱 UFJ 銀行 成城支店
普通 0233800
3. クレジット決済 (QR コード) →



ーお知らせー

- ★ 中村天平：親子で楽しむコンサート
2020 年 1 月 13 日（祝）成城ホールにて開催！
下記の財団ウェブサイトからお申し込みください。
※定員に達した場合はご容赦願います。
- ★ T ポイント募金にご協力願います。
お手持ちの T ポイントカードにあるポイントを募金いた
だけます！ 下記のサイトからお手続きをお願いします。
<https://tsite.jp/donation/>

おかげさまで…

みなさまに愛される

街角の募金箱

キッズファム財団と
は、国立成育医療研究
センターに「もみじの
家」を創設したいとい
う喜谷様との出会いか
ら始まりました。募金
箱は、国立成育医療研
究センター内 1 2 F の
レストランつばさの他
に B 1 ベーカリーにも
置かせていただいております。1 日に 400 名
程のお客様が当店をご利用いただいております
が、カウンターや出入口に設置しているのでお
子様や、パンフレットを読み活動にご理解して
くださった方々が募金して下さる姿をよく目に
しており、微笑ましく拝見しております。私共
も財団の活動はとても素晴らしいものと考えて
おり、今後も活動を広めるためのお力になれた
らと思っております。



（スエヒロ 矢花佐夜子様）

編集後記

キッズファム通信 No.6 をお届けいたします。
皆さまのご支援とご協力のお蔭で今回も多くの
活動を行うことができました。6 月に喜谷昌代
前理事長が天に召されるという悲しい出来事
がありましたが、その思いを引き継いで細谷亮太
代表理事のもと、これからも重い病気を持つ子
どもと家族が楽しく普通の生活が送れるよう努
力したいと思います。来年も親子で楽しむコン
サートや主張コンクールなどいろいろな活動を
予定していますので、皆さまのご参加をお待ち
しています。また、本号より「英国だより」の
執筆を前理事長のご主人、喜谷喜夫さんに願
いしています。

通信 No.5 に掲載した「平成 30 年度決算報告」に誤記がありました。
正味財産期首残高は 17,936,395 円です。お詫びして訂正します。



一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団
(キッズファム財団)

〒157-8535

東京都世田谷区大蔵 2-10-1
国立成育医療研究センター内

Foundation for Severely Ill Children and Their Families

TEL 03-5494-1230 Eメール zaidan@kidsfam.or.jp

URL : <https://kidsfam.or.jp> 「キッズファム財団」で検索ください